



クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔消化器・一般外科〕

指標名

ロボット支援下手術への取り組み

目標・ゴール

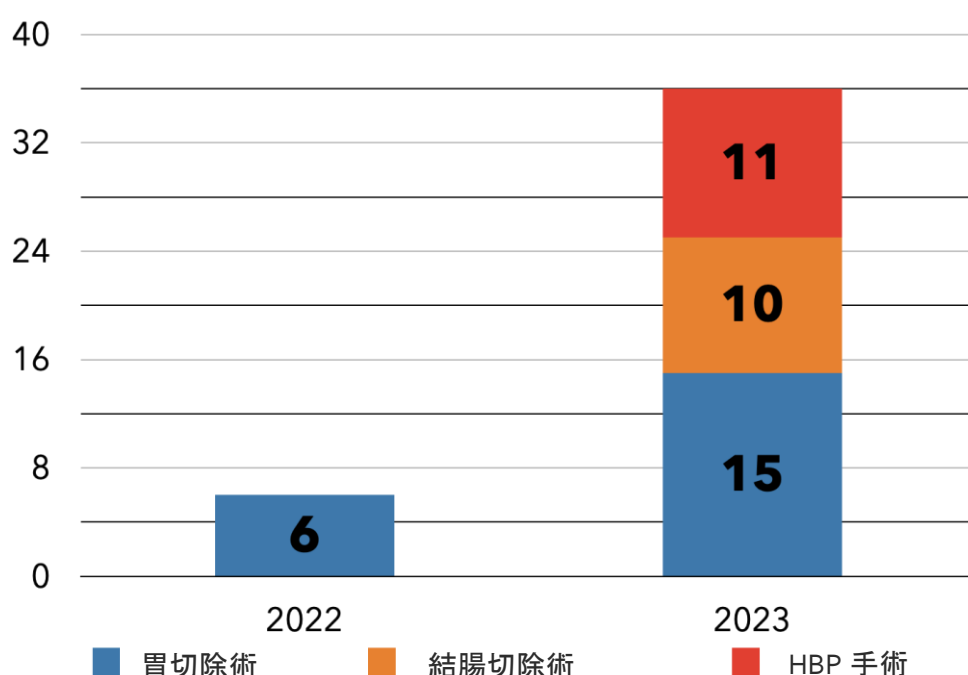
ロボット支援下手術の症例数、該当術式の増加

目標・ゴール達成による効果

ロボット支援下手術は、3D 画像や手振れ防止機能、多関節機能など、その潜在的なメリットから普及が進んでおり、各学会での取り組みおよび海外での実績から、今後更なる発展が期待されている。ロボット支援下手術に対する城南地区を中心とする地域医療圏ニーズは高いと思われる。患者獲得による症例数・医業収入の増加に寄与するものと思われる。

目標・ゴールに対する成果の状況

ロボット支援下手術件数の推移



2022 年：6 件（胃切除）

2023 年：36 例（胃切除、直腸切除、肝切除）

目標・ゴール達成度

☒S :大幅に目標を上回った

☐A⁺:目標を多少上回って達成

☐A :目標を達成

☐B⁺:目標を少し下回った

☐B :目標を下回った

☐C :目標を大幅に下回った

☐- :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

2023 年は新たにロボット支援下肝切除および直腸切除を開始し、手術件数も大幅な増加が達成できた。本年も膵切除や結腸切除へと適応を拡大していく予定である。限られた手術枠の中で症例数を増加するためには、手術室やコメディカルスタッフとの連携が必要不可欠であり、本年度の課題としたい。